



「受動喫煙のない社会を目指して」 引用・参考:厚生労働省 HP

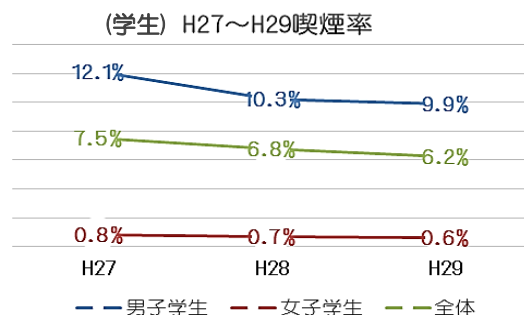


受動喫煙が健康に悪影響を及ぼすことは、科学的に明らかであり、心筋梗塞や脳卒中、肺がんに加え、子どもの喘息や乳幼児突然死症候群等のリスクを高めることがわかっています。

安倍内閣総理大臣は2017年1月の施政方針で「3年後に迫ったオリンピック・パラリンピックを必ず成功させる。…**受動喫煙の徹底**…など、この機を活かし、誰もが共生できる街づくりを進めます。」と演説されました。

また、WHOとIOC(国際オリンピック委員会)の協議(2010年7月21日)では、身体活動を含む健康的な生活習慣を選択すること、すべての人々のためのスポーツ、**たばこのないオリンピック**、子どもの肥満を予防することを共同で推進することについて合意しています。たばこを吸わない人も、吸う人も、これからの日本における「受動喫煙のない社会」について、真剣に考える時機にあると思います。

では、鹿児島大学の喫煙状況について目を向けてみましょう。鹿児島大学では、**建物内は全面禁煙、屋外に喫煙所が数カ所設置されている状況(教育学部は敷地内全面禁煙)**です。受動喫煙を防ぐために、「吸わない人への配慮」=「分煙」はされているでしょうか?当然のことですが、屋外で喫煙すると、たばこの煙はあちらこちらに広がります。その為、多くの喫煙場所は建物から離れた所、もしくは人通りの少ない所に設置されています。しかし、それでも喫煙場所の近くを通るとわたしたちは知らないうちに、たばこの煙を吸ってしまいます。皆さんの近くにある喫煙所はいかがでしょうか?他人ごとではありません。もっと喫煙所の状況に関心をお願いしたいと思います。大学は老若男女、様々な人たちが出入りする環境にあります。保健管理センターは、誰もが安心して過ごせる「受動喫煙のない社会」を目指すために、鹿児島大学の学内全面禁煙化を推奨しています。これからも全面禁煙化への一歩が踏み出される為に、情報を発信し続けていきたいと思っています。



「卒煙(禁煙)支援について」

保健管理センターでは、医師1名、保健師4名による卒煙支援を行なっています。これまでの5年間で約130名の学生・職員が卒煙を希望され、保健管理センターを受診しています。ニコチンパッチの無料配布、医師・保健師による卒煙相談などを行っています。これを機にたばこを辞めたいと思っている方は、是非ご相談下さい。予約制ですのであらかじめ、お電話かメールでお問い合わせください。

【保健管理センター 郡元キャンパス】

TEL:099-285-7385 Mail:hoken@kuas.kagoshima-u.ac.jp

禁煙支援士の紹介

医師
鮫島 久美

保健師
平片 舞
蒲地 亜紀代

保健師
中村 聡子
山口 由佳

